

大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画書(案)

【概要版】



はじめに

本市は中央部に JR と西鉄の 2 本の鉄道が走っており、利便性の高いベッドタウンとして発展してきました。その一方で、鉄道によるまちの分断や踏切による慢性的な交通渋滞などの問題も抱えています。この問題を解決していくために、西鉄天神大牟田線春日原駅～下大利駅間において、「連続立体交差事業」が行われ、鉄道が高架化されます。また、この高架事業に合わせ、側道や駅前広場の整備、区画整理等の事業が行われ、まちの様子が変わっていきます。

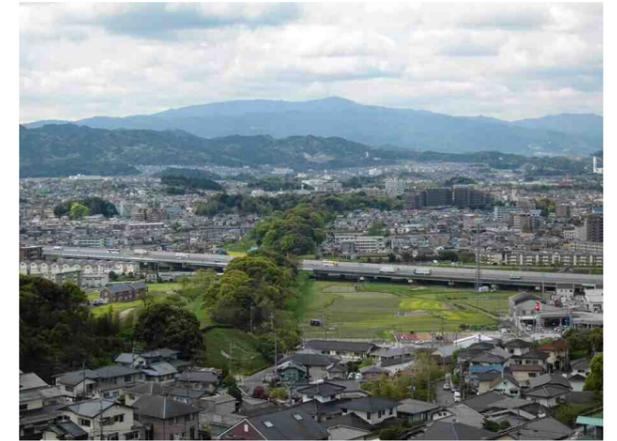
そこで、高架下空間などを活用し、市の中心地としてふさわしいにぎわいや回遊性を創出し、まちの魅力を向上させることを目的として、理想的なまちの将来像を示す本計画を策定します。

基本理念

- 大野城市の新しい顔・都市軸となる空間の創出
- 市民・事業者・行政が共働で取り組むまちづくりの実現

基本方針

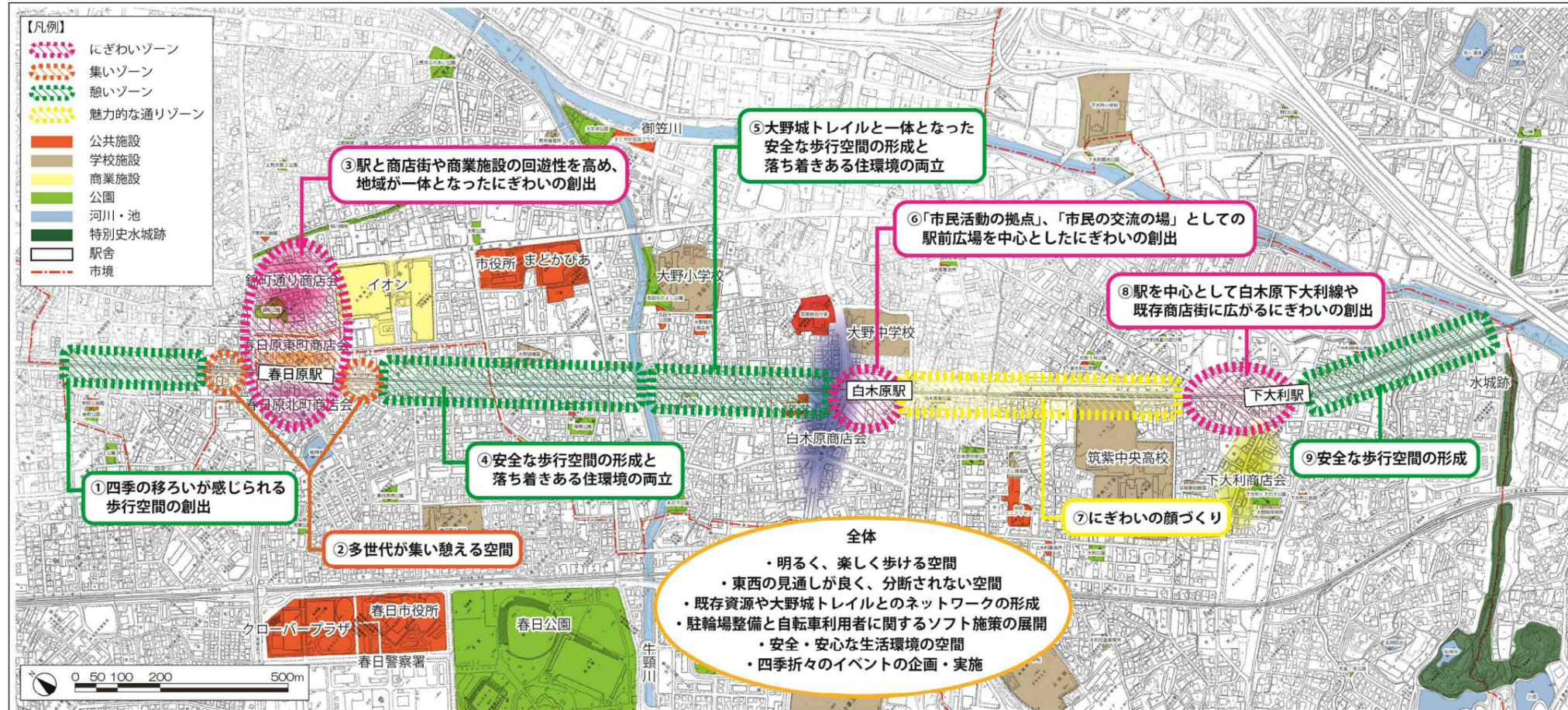
- ①駅・高架下空間とその周辺に「にぎわい」を創出しよう
- ②高架下及びその周辺エリアで「憩い」、「日常利用」、「交流」の空間をつくろう
- ③スムーズで快適な歩行者・自転車ネットワークを形成しよう
- ④高架下空間から大野城市の歴史・自然へのつながりを創出しよう



◆まちづくりビジョンと整備方針

高架下空間及びその周辺地域を含んだゾーニングと、それぞれのゾーンの目指す方向性、また計画対象範囲の全体を通して共通する整備の方針について示します。

●ゾーニング



- ①福岡市側からの連続した歩行空間のつながりを保ち、四季の移ろいを感じながら歩くことができる空間とします。また、駅に近づくにつれにぎわいを感じられる区間へと移行します。
- ②駅からのにぎわいを波及させ、落ち着きの中に多世代(子どもから高齢者まで)が集い憩うことのできるゾーンとします。
- ③駅を中心に周辺の商店街や商業施設との回遊性を高めしていきます。また、春日市を含めた地域が一体となり、面的に広がるにぎわいを形成するゾーンとします。
- ④周辺が住宅街のため、安全な歩行空間の形成と落ち着きのある住環境を保持するゾーンとします。
- ⑤周辺が住宅街のため、安全な歩行空間の形成と落ち着きのある住環境の保持と併せ、大野城トレイルとの一体的なネットワークの形成を図ります。
- ⑥「市民活動の拠点」や「市民の交流の場」と位置づけ、市民や商店街、事業者が共働でイベントなどを行い、駅を中心として周辺へにぎわいが形成されるゾーンとします。
- ⑦西鉄の高架化に伴い、東側に幅員25mの街路が整備される区間です。一つのテーマ性を持ち、イベントスペース、店舗等が立ち並ぶ中を楽しみながら歩くことのできる、にぎわいの顔のゾーンとします。
- ⑧駅を中心として、下大和商店街や白木原下大和線へとにぎわいがつながるゾーンとします。
- ⑨高架沿いに形成される歩行者専用道路を介して、御笠川、特別史跡水城跡へとつながるゾーンです。将来的な回遊の見どころとして、歩行者の安全性を確保します。

全体整備方針

1. 側道の空間整備

- 高架下空間と一体的で巡りたくなる空間づくり
 - ・歩行者を優先に考え、住宅地側と可能な限り高架下側へ歩行空間を設け、高架下空間との一体的な活用や緑あふれる並木道の形成を図り、市民や来訪者が巡りたくなるような空間を目指していきます。

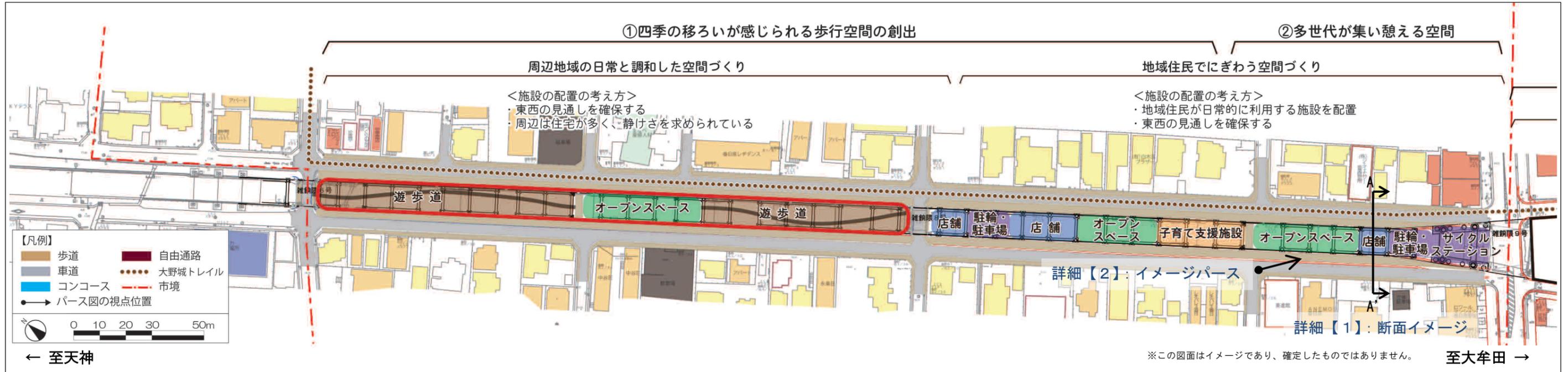
2. 高架下における施設の整備

- まちの拠点としての側道と一体的な施設整備
 - ・高架下空間と側道との一体的な整備やオープンスペース、案内サイン、またサイクルステーション等の整備を行い、利用しやすい高架下空間の形成を目指していきます。
- 開放感や統一感のある高架下空間の施設整備
 - ・東西の連続性を感じるよう配慮し、明るく開放感や統一感のある整備を行い、側道整備と一体となって、歩きたくなる高架下空間の形成を目指していきます。

3. 周辺地域と調和した修景整備

- 機能性を満たしながら統一感のあるデザイン
 - ・ベンチや街灯などのストリートファニチャーは、それぞれの機能を十分に果たすよう効果的な配置を行うとともに、連続性があり地域として統一感のあるデザインとし、高架下空間の利用促進を目指していきます。
- 周辺地域と一体となった景観形成
 - ・周辺地域と調和し、より豊かな暮らしあふれるまち並みづくりへつながることを目指していきます。
- 緑化空間の景観形成
 - ・高架下空間や側道では緑潤う空間を形成し、市民や来訪者などが集い憩える場の創出を図ります。

ゾーニングや地域の特性などを基に空間づくりの考え方、高架下空間の活用イメージ、側道整備に関する考え方などを区間毎に示します。また、図中赤枠内は、具体的な活用の見込みが立つまでの間、暫定的に遊歩道やオープンスペース等として活用することを想定しています。



整備方針

1. 側道の空間整備

- 住宅地側、鉄道側の両側に歩道を設置
- 栄町雑餉隈緑地を側道の一部として整備
- 一方通行の規制を維持

2. 高架下における施設の整備

- 雨に濡れずに遊べる公園等の整備
- 地域住民や電車通勤の人が利用できる子育て支援施設の整備
- 駅の近くにサイクルステーションの設置
- カフェ等の飲食店の設置
- 緑地に代わる地域の憩いの場としてのオープンスペースの設置
- 高架下空間の施設利用のための駐輪・駐車場の設置

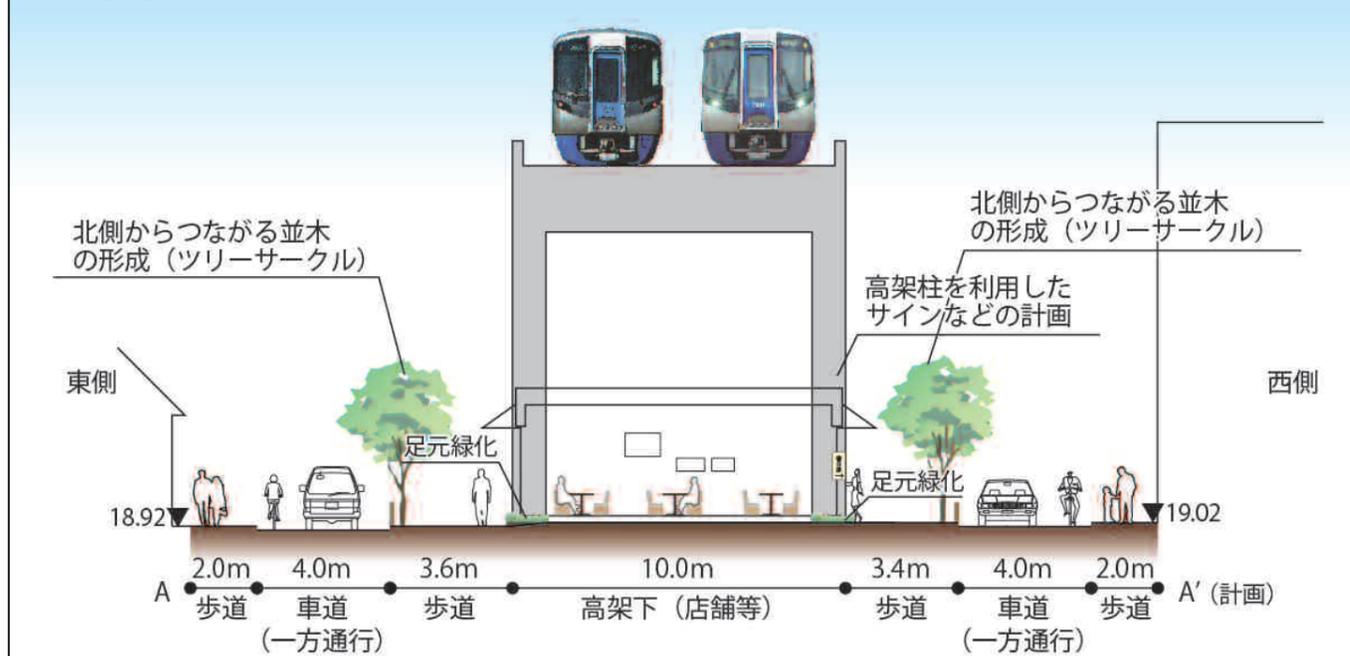
3. 周辺地域と調和した修景整備

- 連続した並木道の形成
- 高架下における足元緑化の推進
- 積極的な緑化による地域の緑の維持



詳細【1】：テナントが入る場合の断面イメージ（A-A'）

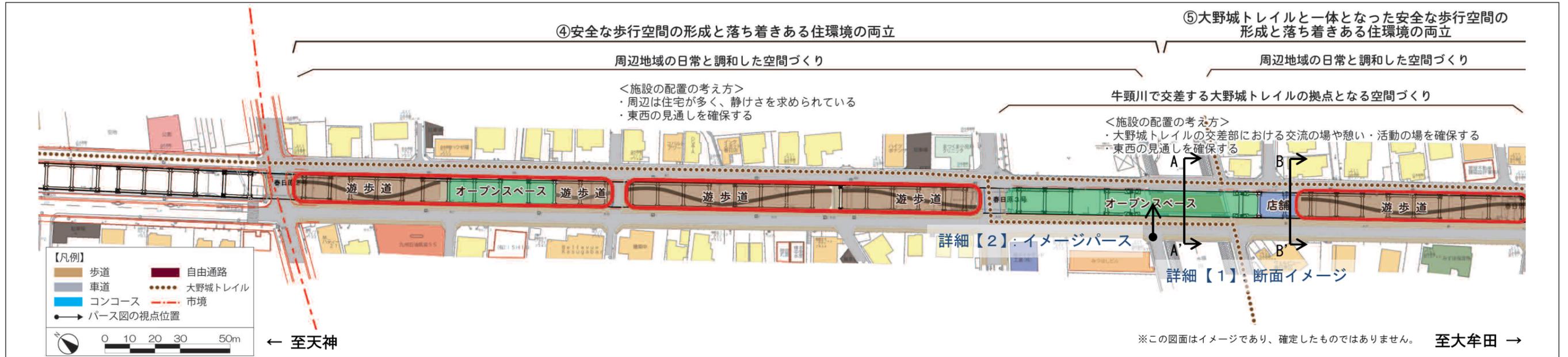
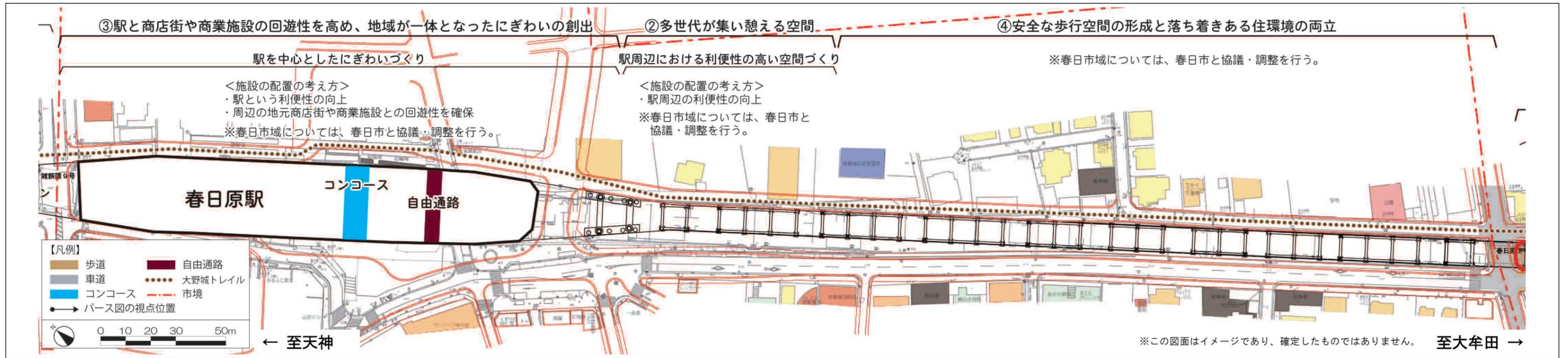
※この図面はイメージであり、確定したものではありません。



詳細【2】：テナントが入る場合のイメージパース

※この図面はイメージであり、確定したものではありません。





整備方針

1. 側道の空間整備

- 一方通行化による安全な歩行空間の確保
- 駅周辺の回遊性を促す駅前広場の整備

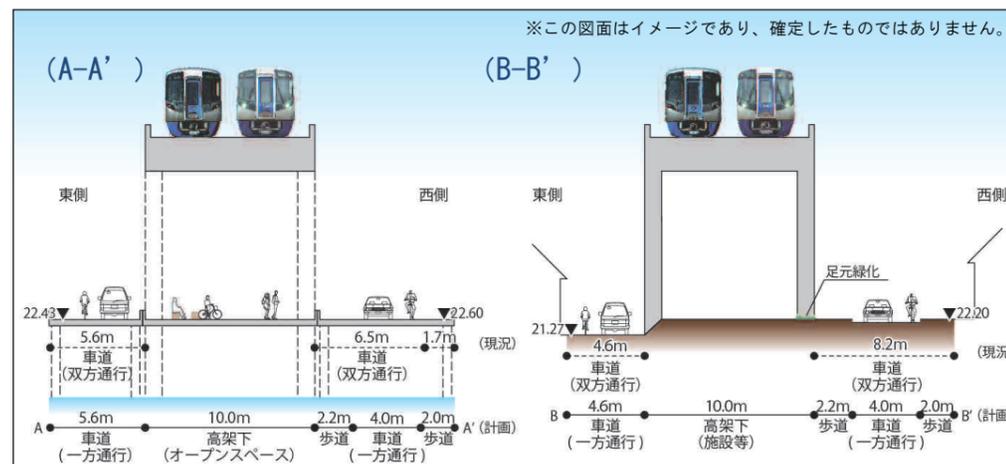
2. 高架下における施設の整備

- イベントや大野城トレイルの拠点として利用できるオープンスペースの整備
- 牛頸川にかかる鉄道用橋梁を有効活用したオープンスペースの整備
- オープンスペースに隣接したカフェ等飲食店の設置

3. 周辺地域と調和した修景整備

- 高架下における足元緑化の推進
- トレイル利用者や来訪者がわかりやすい誘導サインの整備

詳細【1】：牛頸川における断面イメージ



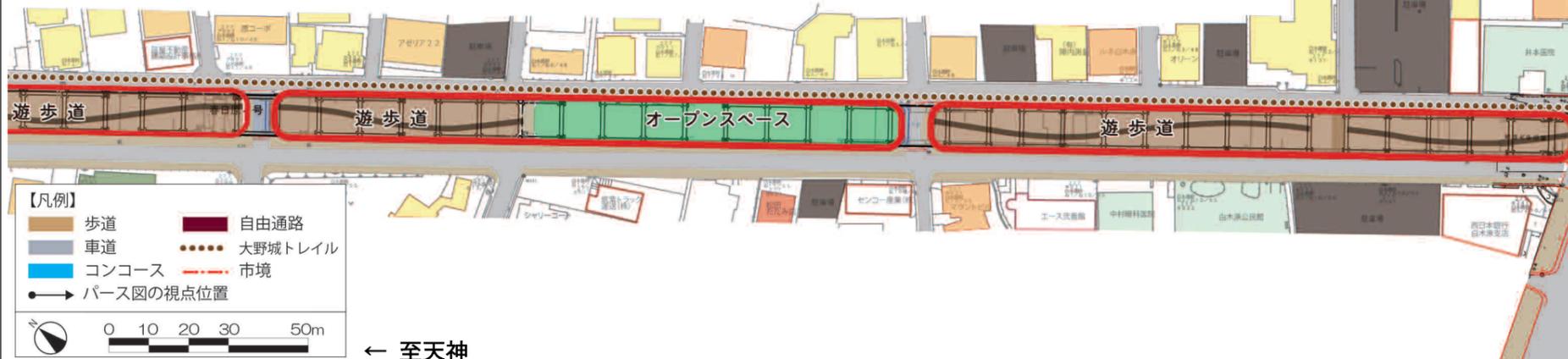
詳細【2】：牛頸川におけるイメージパース



⑤大野城トレイルと一体となった安全な歩行空間の形成と落ち着きある住環境の両立

周辺地域の日常と調和した空間づくり

- <施設の配置の考え方>
- ・周辺は住宅が多く、静けさを求められている
 - ・東西の見通しを確保する



⑥「市民活動の拠点」、「市民の交流の場」としての駅前広場を中心としたにぎわいの創出

- <施設配置の考え方>
- ・駅や駅周辺の利便性の向上
 - ・魅力を向上させる

詳細【1】：平面イメージ

駐輪場+ サイクルステーション

オープンスペース

白木原駅

コンコース

詳細【2】：イメージパース

※この図面はイメージであり、確定したものではありません。 至大牟田 →

整備方針

1. 側道空間（駅前広場）の整備

- イベントなど様々な市民活動を行える空間づくり
- 白木原駅～下大利駅間で雨の日でも濡れずに歩ける歩行者用の屋根の設置
- 駅利用者用の駐輪場の整備

2. 高架下（駅舎部）における施設の整備

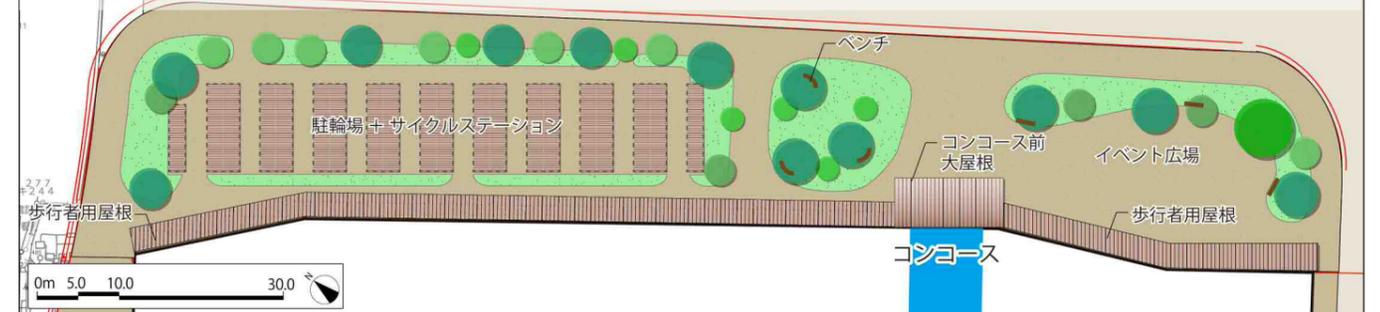
- 駅前広場と連続性のある駅舎内の施設整備
- ”大野城らしさ”を感じることができる駅舎デザイン

3. 周辺地域と調和した修景整備

- 白木原下大利線と連続した緑豊かな空間づくり

詳細【1】：白木原駅東口駅前広場の平面イメージ

※この図面はイメージであり、確定したものではありません。

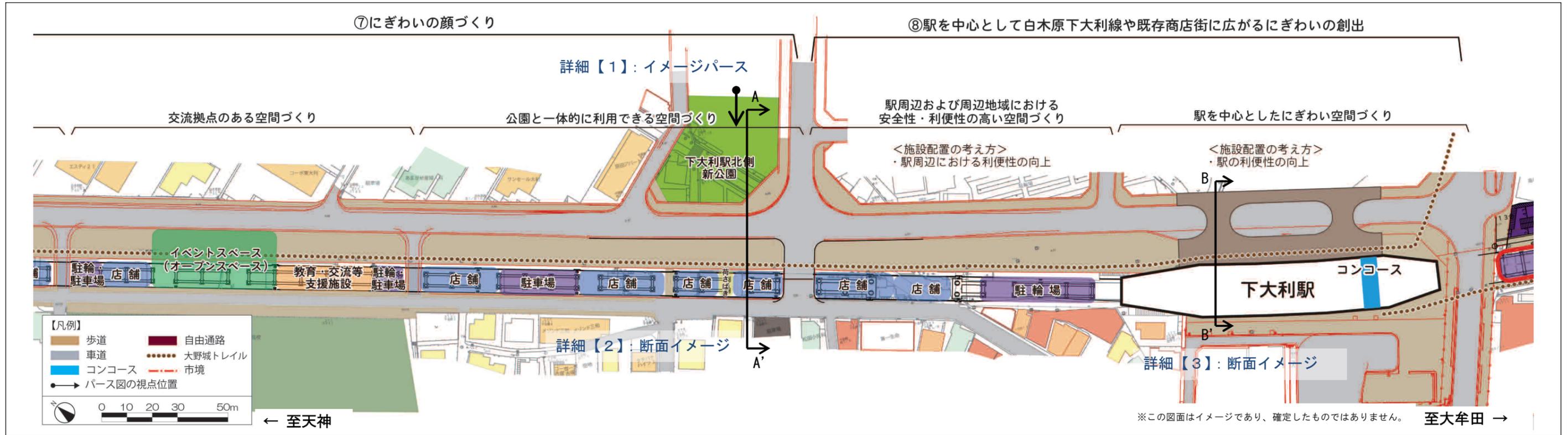


詳細【2】：白木原駅東口駅前広場のイメージパース

※この図面はイメージであり、確定したものではありません。



現況写真：白木原駅東口駅前広場



整備方針

1. 側道の空間整備

「下大和駅北側新公園周辺」

- 白木原駅～下大和駅間で雨の日でも濡れずに歩ける歩行者用の屋根の設置
- 高架下施設と合わせた側道利用の促進の確保（西側）

「下大和駅前周辺」

- 駅舎からバスまで雨に濡れずに行き来できる屋根の設置
- 駅前、屋根の上を広場として活用
- バスが寄り付くためのバスカット等の設置

2. 高架下における施設の整備

「下大和駅北側新公園周辺」

- 公園と合わせて利用できる店舗の設置
- 明るく統一的なデザインによる施設整備

「下大和駅前周辺」

- 歩道等との一体的な活用につながる駅舎内の施設整備
- “大野城らしさ”を感じることができる駅舎デザイン

3. 周辺地域と調和した修景整備

- 幅員を活かした緑豊かな空間の形成
- 高架下における足元緑化の推進
- 周辺の公園や広場と一体となった緑地空間整備

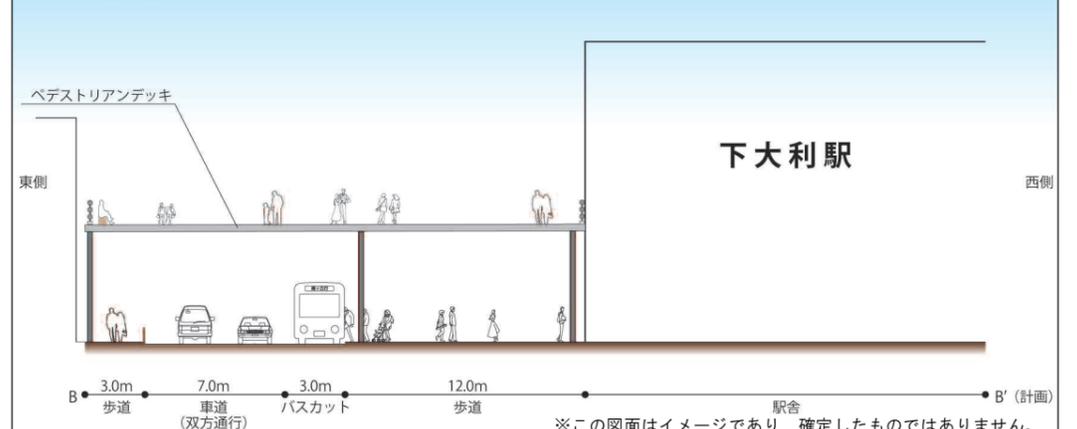
詳細【1】：下大和駅北側新公園周辺のイメージパース

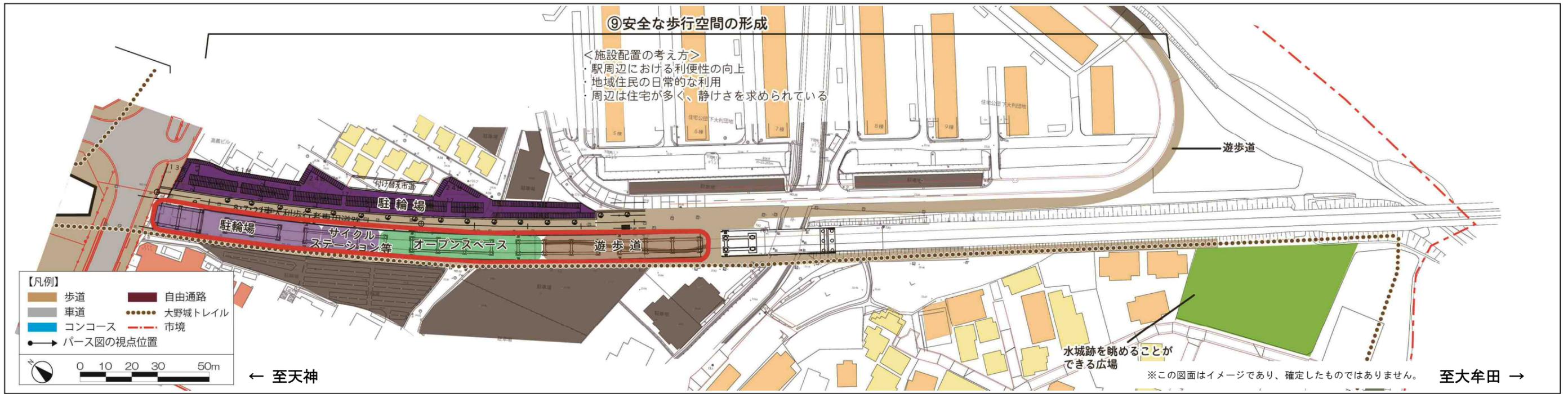


詳細【2】：下大和駅北側新公園周辺の断面イメージ（A-A'）



詳細【3】：下大和駅前の断面イメージ（B-B'）





整備方針

1. 側道の空間整備

- 水城跡や御笠川へとつながる歩行者専用道路の整備

2. 高架下における施設の整備

- 駅の近くに駐輪場とサイクルステーションの設置
- 水城跡へとつなぐオープンスペースの整備

3. 周辺地域と調和した修景整備

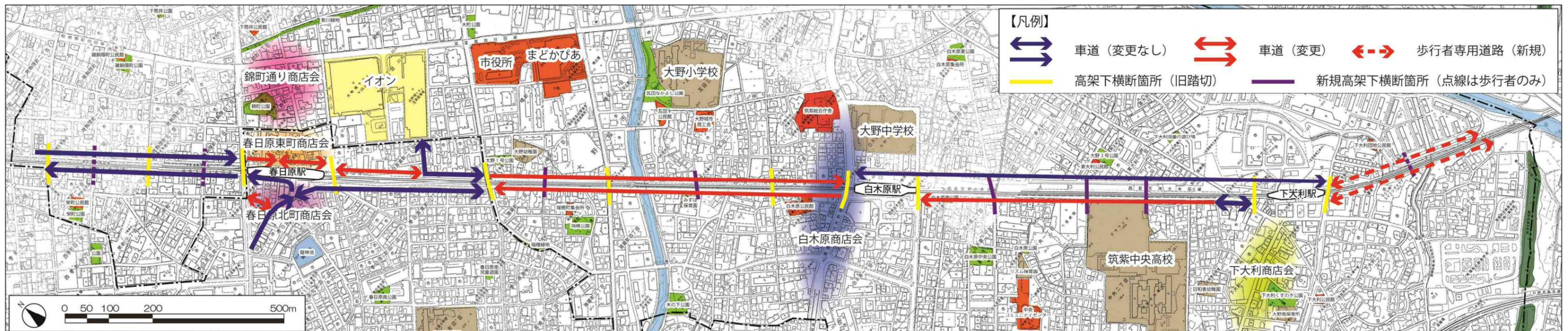
- 高架下における足元緑化の推進
- トレイル利用者や来訪者がわかりやすい誘導サインの整備



◆連立側道について

安全で安心な歩行空間を確保するため、側道の一部区間で車道の一方通行化を図ります。一方通行とする場合、新たな高架下を横断できる道路を設けることとします。図で示す新規横断道路の位置は目安であり、側道整備を検討していく中で、警察との協議などを行い、位置を決めていきます。

●計画図



◆今後の課題と推進体制

(1) 今後の課題

本計画は、理想的なまちの将来像を示したものであり、実現に向け様々な課題があります。課題は大きく3つに分類でき、以下にその内容を示します。

①高架下の利用についての課題

(具体的な例)

- ・高架下空間の利用条件（面積、賃料等）に関する西鉄との協議
- ・交番の設置に関する警察との協議
- ・レンタサイクル事業に関する協議・検討
- ・高架下用地の西鉄から市への貸付可能な面積の整理 など

②側道や施設等の整備についての課題

(具体的な例)

- ・白木原駅～下大利駅間におけるコンセプトの検討
- ・側道や高架下施設などのデザインの統一性に関する協議・検討
- ・側道の整備に関する隣接自治体との調整
- ・オープンスペースなどの各施設的设计・整備に関する協議・調整 など

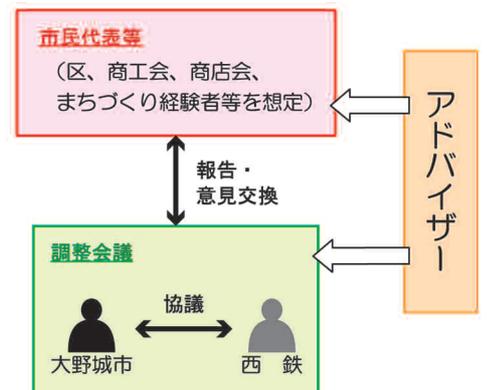
③活用についての課題

(具体的な例)

- ・高架下空間の活用において市民を中心とした組織体制に関する検討
- ・地域だけでなく、西鉄や行政と連携したイベント等の検討
- ・高架下に対する市民の関心を継続させるための取り組みに関する検討 など

(2) 推進体制

今後の課題を整理すると、改めて関係機関及び地域住民との協議・調整を十分に図っていくことが必要であると言えます。特に西鉄とは土地の利用方針や施設整備など様々な部分での詳細協議が必要です。そこで、市と西鉄に第三者のアドバイザーを加え、ワーキンググループや双方の意思を決定する会議の設置など体制をつくり、まちづくりを推進していきます。



●今後のスケジュール

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
連立事業			高架工事				高架切替	事業完了			
関連事業			側道・駅前広場・公園整備等								
高架下整備				WS	WS						
利用開始											部分的利用開始
市民	しみん会議		シンポジウム			市民参加の継続					

大野城市高架下利用及び市街地活性化基本計画（案） 【概要版】 発行日：平成28年3月

大野城市役所都市計画課

〒816-8510 福岡県大野城市曙町2丁目2番1号
 TEL：092-580-1868 FAX：092-572-8432
 E-mail：kentoshi@city.onojo.fukuoka.jp